

工夫して取り組んだこと

運営方式

- 予約制として人数制限に努め、密を避けた。
- 事前に予約を取り、受け渡し分散されるように時間の設定をした。
- お弁当予約は、LINE 公式アプリを使用して行い、また事前の注意事項や感染症対策についても LINE で周知した。
- 夏休みや長期休暇の時は、食事の配布だけではなく、少しでも交流ができるようにゲームや駄菓子屋をイベントとして行った。
- 会食形式だったが、予約制のお弁当調理提供と寄付いただいた食材や物品のパントリーに活動を変更して開催している。
- 取りに来ることが出来ない方に配達を行っているが、自家用車だけではならず、カーシェアで車を借りて配達を行った。
- 駐車場を借りて、事業者のお弁当配布やキッチンカーを利用して開催した。

感染症対策全般

- 部屋の換気、利用する部屋、家具などの消毒。
- スタッフ、ボランティア、来場者全員に検温と手指消毒を行い、受付票に当日の体調と体温を記入してもらった。
- 感染予防と衛生管理のため、手指消毒手洗いを徹底し、また食器の代わりに使い捨て容器等を利用して対応した。

備 品

- 新型コロナウイルス感染予防の対策として、十分な換気のため、階段中は入口ドアと非常口を開け、間にサーキュレーターを置き、常時換気のある環境を作った。
- 手袋、エプロン、マスク等使い捨ての消耗品に変え、その都度交換しながら調理した。
- 食事テーブルにアクリル板の設置、座席の感覚を空け、黙食を実施した。

工夫して取り組んだこと

食 事

- メニューにおいて、豆、芋、海藻、乾物などを意識して献立に組み込んでいて、食材、味、色見、などのバランスを工夫している。
- アレルギーや家庭の事情によるNG食材に可能な限り対応した。
- 食事はアンケートや子ども達からの要望に応じたメニューを提供した。
- 子どもの中には魚嫌いな子が多いため、寄贈品の鯛をハンバーグ照り焼き風にし、提供した。濃い目の味付けで抵抗なく食べられる魚を主菜にし、彩のよい野菜料理を副菜に添えた。
- メニューの選定にあたっては、子どもが好む料理を優先的に選択してきただけでなく土曜日にはカフェ形式で実施したため、パフェのような楽しく食べられるメニューの提供など工夫した。
- 夏休みには口当たりの良い食べ物をメニューに入れたり、ハロウィンの時にはかぼちゃのおやつを作ったりと季節感のあるものを提供できるよう工夫している。

様々な工夫

- 調理師・幼稚園教諭・保育士・幼児食マイスターが在籍し、知識の共有を図っている。
- Instagram、ホームページ等で情報を発信し、公式ラインで利用者との直接的なコミュニケーションを図り、徐々に信頼関係ができていく。
- 地域や企業や個人、フードバンクと連携し、お弁当以外にも食材や日用品を配布した。
- お弁当の受け取りが困難な家庭に対して、個別配送に対応した。
- 子どもたちに、スタンプカードを用意し来てくれたら、好きなシールを貼り、5個シールが貯まったら、くじが引ける（大人は1食プレゼント）など来てくれるよう工夫した。
- 広く活動を知っていただく為に、地区センター、ケアプラザ、町内の回覧版を広報に利用した。
- 夏祭り、ハロウィンなどの季節ごとのイベントを適宜取り入れた。
- 子ども達が少しでも楽しく過ごせる様に、子ども主催で「じゃんけんつかみ取り大会」を開催した。（寄付でいただいたタオルやおもちゃなど）
- 子ども食堂へ来る子どもたちに災害時の保存食を提供する案内を行っている。
- 食材配布の際に、米・野菜・冷凍食品・お菓子・乳幼児用の離乳食等、重量があるものは、児童の手を引く保護者のため、自転車・車などで運搬を行った。
- 子育て世帯が相互に交流する場として、食事スペースだけではなく、遊ぶためのスペースを設け、子どもが自由に過ごすことができる空間を確保した。

工夫して取り組んだこと

- 子どもたちに黙食を強いるには難しいため、音楽等を流して、食事中の会話を減らす工夫をしている。
- 月に1回茶道教室、毎回1時間ほど、駄菓子屋さんごっこやコンサート等を開催した。

活動するにあたり苦勞したこと

手間の増／担い手の不足

- コロナ感染対策で人数制限した結果、外で並んで待つ人が多くなり、近隣の方や、通行される方に迷惑をお掛したので、店の外で対応する人を1人配置した。
- 活動ボランティアの高齢化、また若いボランティアは仕事があり、毎月確実に参加できる人の把握に苦勞している。
- キッチンボランティアスタッフが増えるよう声掛けを継続的に行っている。
- ボランティアの確保、交通費などの予算の確保。
- 毎月1回、食糧品を配布しているが、利用者が多く配布予定時間より早く終了してしまうので、もっと多く配布品を準備するようになった。しかし、利用者も増加するため、配布品を十分に準備することに追われている。
- 感染予防のため、こまめな換気、手洗いや消毒、密接にならないよう心がけていたが、消毒のアルコールが苦手な子どもがいたため、次亜塩素水などの消毒を複数用意して対応しなければならなかった。
- 作る量が毎月増えているが、調理、提供のスタッフが足りなくて利用者を待たせてしまう。
- 拠点となる会場が狭いため、テイクアウトの時間が重複すると密が発生することがあった。
- フードパントリーを行うために、大量の食材、雑貨をフードバンクその他から調達しなければならず、運搬等の負担が一部のスタッフに偏ってしまう。その負担は大変なもので、活動の疲弊につながっている。
- コロナに感染した家庭へ食材を届ける活動をしたが、スタッフに配達させることができず、限界を感じた。
- 感染症のことを考慮して、事前予約制にしているが、子ども食堂へ参加する意欲の低い親の元にいる子どもの参加につながらないことを懸念している。
- 人手が手一杯な中で子ども達とのふれあいの時間が確保できなくなっている。
- 最も大きな課題は、ボランティアスタッフの定着。活動開始以来、利用者は一定数以上となったが、それと歩調を合わせてスタッフの育成、定着が進まなかったことが最も大きな苦勞である。
- 新型コロナウイルス感染症が流行っている時期はキャンセルが相次ぎ、お弁当が残ってしまい、運営者が買い取った。また、取りに来られない方には、配達できるよう努めたため、配達要員が必要になった。

活動するにあたり苦勞したこと

コスト増

- 物価高騰による食材確保の難航。ガソリン代の負担の増加。
- 限られた予算で、スタッフの交通費も含めた経費をその中でやりくりすること。
- 提供するお弁当や総菜の材料費の面から画一的なメニューに偏ってしまい、子どもの人気のあるメニューを準備することが出来なかったが、支援金を受けることが出来た為、今までもよりも提供できるメニューの幅が広がった。しかし、肉や野菜は金額が上がっていることもあり、購入した材料は工夫して提供できるように努めていきたい。

広報活動／情報収集

- 子ども食堂を始めるにあたってのPRや、地域に広める活動に苦勞した。
- 町内会や学校との連携。連合町内会や小中高の各学校に対し、説明し掲示用チラシは受け取ってもらえたが、以降の連携等は無かった。
- 本当にお困りの方々が来られているかがまだ掴めていない点。(いじめや不登校、貧困のご家庭がどのくらい近所にあるかが不明)
- スタッフ探しと、居場所を必要としている子どもの情報収集。
- 食堂の周知を行うため、各種イベントを開催して食堂のPRをした。
- ニーズの把握のための、アンケートの実施。

予 約

- 新型コロナウイルス感染防止対策とSDGSを意識した食堂のため、前日までのネット参加申し込みとしたところ、気軽に来るという点でハードルを上げてしまい、開始直後は参加者が集まらず苦勞した。(現在は直前でも電話予約で確認いただければ利用可能)
- オープンチャットLINEを活用し、事前予約を受け付けているが、事前予約だけで提供食全ての枠数が埋まりそうになったことがあり、当日来られた方が受け取れなかったという事態が発生した。提供食数全体の数(母数)をこれ以上増やすことは物理的に難しいため、事前予約数に制限を設け、対応することとしている。

今後の課題

担い手の確保

○ボランティア数を増やしたいため、短時間でもお手伝い頂いた方に食事券を渡すアイデアなどを実用化していきたいと思っている。

○現在、スタッフは交通費のみのボランティアのため、幾ばくかの経費化も今後の課題である。また若いスタッフの確保も課題の1つである。

○食堂の利用者は、子どもと仕事をしている保護者のため、開催が19時までになる。スタッフが高齢化してきているため、スタッフの確保等の持続性に心配がある。

○遊ぶ場を設けたり、一緒に料理をする際には、子どもの安全確保に十分気をつけなければならない。そのためには、利用者に対して十分なスタッフの確保が必要となり、スタッフの育成、定着が引き続き課題となる。

○片付けや子どもの遊び相手を担える若手ボランティアの充足。これまでも学生や若手ケースワーカーが参加してきたが、それぞれのライフステージの変化により継続困難になるため、高校のボランティア部や大学のサークル等団体と継続的に交流したいと考えている。

資金面

○フードバンクかながわなどの協力で食糧品配布をしているが、利用者の増加で、配布品を購入することも多くなってしまった。今後は助成金や補助金制度を利用して活動資金の確保に努めていく必要がある。

○お弁当を作る材料が余った時は惣菜として作り、お弁当の販売の時に惣菜を売ることで、若干の利益を得ているが、常に綱渡り状態のため、多くの企業、個人の農家さん、地元の応援して下さる方々には引き続きご支援をお願いしたい。

○長期的に活動できるように、協力金や補助金だけに頼らない資金確保。

○お弁当やキッチンカーの利用で、予約する方が増え、予約が100～150食が20分以内で終わってしまうことが多くなってきた。多くの方に利用してもらいたいが、差額分を団体が負担するために金額面での負担が大きくなっている。

今後の課題

運営方式／運営の方向性

- コロナ感染状況が収束した時の開催方法について再考する必要がある。お弁当を持ち帰って食べられることを利点ととらえている方がいる一方、わいわいおしゃべりをし、交流を行う会食を利点ととらえている方もいる。
- 感染予防に努めて行っているが、お弁当配布が定着しているため、子どもの居場所作りをしていくことが少し困難な状況である。
- コロナ禍でテイクアウトと配達に切り替えて活動してきたが、居場所として食堂での会食の再開を検討中。
- お弁当提供により、宅食が可能になり、これまで支援の手が届かない方（食堂に来られない家族の一員）やケアを担う方の役に立つこと等、新たなニーズに気付けた。今後の開催形式として、ハイブリッド形式での食堂開催を検討している。
- 子ども食堂を常設したい。
- 更に参加者が増えた場合において、限られた席数の調整、食事提供数の限界、高齢化するボランティアの対応、開催場所の確保が問題。なるべく参加者の申し込みを断らないように考えたい。
- 今後、別の場所に毎日開催できるような子ども食堂の運営の計画を進めているので、地域の子どもたちが気兼ねなく、来られる居場所を作っていきたいと考えている。
- 子ども食堂をやっている横のつながりをもって、地域全体での認知度を上げていきたい。また、お子様1人など、誰でも気軽に利用できる環境作りをしたい。
- 子どもたちの居場所、地域のコミュニティ、貧困家庭への支援につながるようにしていきたい。
- 新規の利用者を増やし、学習支援（食育、農業体験、英語、音楽）を通して、子ども達の学べる学習の機会を提供していきたい。
- ご飯が食べられる場所で終わらず、居場所として捉えられるために「食べること」と午後の「安心できる居場所」としての役割が充実していくようにしたい。
- 生活保護を受けていない貧困家庭と、年金生活者に寄り添い、食の支援だけではなく健康生活が送れる手助けになれる団体を目指して行動する。

今後の課題

広報／情報収集

- 新規の方に参加してもらうための周知を継続的に続けていく必要がある。
- 地域に根付いた活動になってきた。子ども食堂は利用のハードルが低い、(誰でも来られる)ので支援の必要な方により情報が届くようにしたい。安心して利用して欲しい。
- 来てくれた方にアンケートをとり、その結果を参考にもっと喜んでもらえるように活動を続けていきたい。
- 生活困窮者の特定は難しいため、多くの方へ活動していることを知ってもらい、本当に必要としている子どもたちに届ける努力を続けていくこと。
- 当面は多くの子どもの参加してもらうことに焦点を置き、ポスターの配布や、展示をしてもらえる場所の開拓と興味を感じる募集内容の検討が必要。
- 本当に困っている家庭の子どもは来てくれないので、どうすれば声が届くのか思案している。家庭の事情に踏み込めないのが現状。
- 情報提供等の実態把握。本当に必要な家庭に情報が届いているのか、また提供品が届けられたか。もっと必要としている家庭があるのではないか、実態が把握できていない。
- 学校や町内会、施設など他の子ども食堂との連携により、困っている親や子どもたちと出会えるような工夫が必要。

活動場所の確保

- 一定の広さと換気が可能な会場が必要となり、会場探しが課題。
- 利用希望者が増えても受け入れられるよう、今より広い場所の確保。
- 会食を始めたいが、現在の施設では難しく、会場探しから検討中である。
- 寄付品の保管場所。

今後の課題

様々な工夫

- 今後の課題として、参加者の列ができてしまうため、誘導する者を1名配置し密にならないよう対策をとる。
- 感染防止や子どもの安全確保に十分留意しつつ、食事以外のイベント等を多様に展開することが課題となる。
- お弁当配布にすると申し込みが増えてしまい、定員を設けなければ、運営が困難になるため、お弁当形式で増えた人数を、会食形式では減らさなければ受け入れられないことが課題。
(入れ替え制など、やり方を工夫する必要あり)
- 現在は食育まで行き届いていないので、栄養や食を通して子どもたちともっと思い出に残る時間をつくっていききたい。
- 感染防止の観点から短い滞在時間で行えるよう工夫を続けるが、今後は短時間で行える子ども向けのレクやクラフトなども行いたい。